

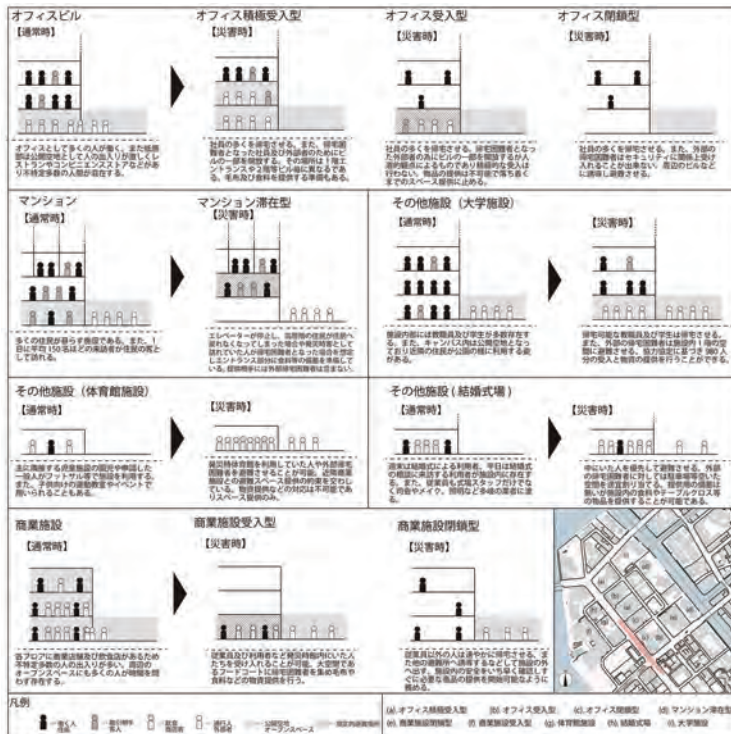


主なトピックス

災害に強い都市づくり

木造密集市街地や海拔ゼロメートル地帯などの災害脆弱地域が広がる江東区全域を視野にいれながら、豊洲地域を拠点とした防災まちづくりの体制づくりや空間づくりについて検討を行った。学部4年次の「卒業研究」や大学院の「修士研究」のカリキュラムとして、豊洲地区のオフィスビルや商業施設、マンション、大学などの様々な施設の災害対応能力や相互の連携体制についてフィールドワークを主体とした調査を行った。また、学部4年次の「卒業研究」や修士課程の「修士研究」の一環として、都市再生安全確保計画を始めとするエリア防災の取り組み手法について事例研究を行った。そのうえで、豊洲2・3丁目まちづくり協議会にて活動成果を報告するとともに、個々の施設ごとではなく、豊洲地域全体としてのエリア防災に取り組む方法について検討を進めている。

本年度の活動の成果をもとにして、豊洲地域における災害時を想定した帰宅困難者支援のためのマップの作成を豊洲2・3丁目まちづくり協議会とともに進めている。取り組みの端緒として、各地の防災マップや帰宅困難者支援マップの事例調査を行った。これらの事例を分析しながら、豊洲地区の実情に即しつつ、大学や住宅とオフィスが混在し、さらに大学も有する豊洲地区の可能性を引き出す独自の帰宅困難者支援マップを作成するために検討を進めている。将来的には地域住民や地元企業の方々への情報発信を行い、江東区の災害に強い都市づくりに向けた体制づくりを進めていくために、ホームページなどを通して情報発信していくことを検討している。



豊洲地域の帰宅困難者の受け入れ態勢の現況分析

安心して暮らせる生活環境づくり

急激な土地利用の転換をとともなう都市づくりの過程において発生する諸課題について、プロジェクトに参画する専任教員が相互に連携しながら調査研究を進めている。本年度は豊洲地域におけるオフィスビルやマンションなどの有効空地における子供の遊び場環境の創出に関する研究や、急激なインフラ整備や住宅供給に応じた都市環境エネルギーの安定供給などの研究を行った。また、災害時にも安心して暮らすための取り組みとして、豊洲地域の住民と学生が連携して簡易ボードによる運河利用のシミュレーションを行った。参加者も次第に増加しており、災害時のみならず、日常的な防災意識の向上やコミュニティ形成の取り組みとして継続している。



災害時を想定した運河利用シミュレーション

多文化共生のまちづくり

インド人居住者が集積する西葛西地区を対象として、多文化共生のまちづくりについて調査研究を行っている。学部3年次の「ゼミナール2」のカリキュラムを活用しながら、外国人支援団体やインド人会などの協力を得ながらフィールドワークやインタビュー調査を行っている。学部4年次の「卒業研究」では、インド人女性居住者の外出行動や買物行動、西葛西地区内に置けるコミュニケーションスペースの実態などについて分析し、多文化が共生する都市空間について考察を行った。



西葛西地区でのフィールドワークの様子